

■第3回 都市と地域コミュニティの持続可能性に関する懇談会 意見交換要旨

【ごみステーション】

- ▶私の住む地域では、特に集合団地の自治会加入率が落ちているが、自治会に加入していない人にごみステーションを使わせないという対応はしていない。他の地域において、**自治会未加入者**に対する**ごみステーションの使用**について、**トラブル**があったということを聞いている。地域のごみ処理問題においては、自治会未加入者への対応において**寛容でありたい**と考える。
- ▶ごみステーションの管理において、**ルールが守られている地域**ではどのような**対策**がされているのか**調査**すると良いのではないかと考える。
- ▶**中心市街地**は飲食店による生ごみが多いため、**カラス**に荒らされやすい。中心部でごみが散乱していると、**まち全体のイメージ**が悪くなるため、**カラス対策**は**重要**である。
- ▶先日の突然の風雨により、重さが軽いプラごみが飛ばされ、**道路**などに**散乱**していた。ごみステーションに**アルミ蓋付**の収集箱があるとカラス対策も含めて解決できるが、地域によっては**設置場所がない**というケースもあり、**地域それぞれの課題**があると感じた。
- ▶カラス対策**ネットの費用**は、自治会が負担する場合や、個人で負担する場合など、地域や自治会によって**異なっている**。
- ▶岐阜市のごみステーション（個別収集を含む）は、約27,000か所あり、かなり**数が多い**と受け止めている。ステーションの数は、**全国的にも増加傾向**である。人口は減少している一方、住民からの設置要望への対応により、ステーションの数は増加しているという状況である。ステーションの数が増えると、ごみの収集効率は下がっていくため、**収集コスト**や**人員確保**の観点で踏まえ、**どこまで対応するのか**を考えていく必要があるのではないかと考える。

【自治会】

- ▶ごみ処理問題に対して、地域でどのような対応をしているか**他市町の事例**を収集するなど、**自治会**としても**研究**していく必要がある。
- ▶住民から新たなごみステーションの設置要望に関して、**自治会内でトラブル**が発生していた。ごみ処理に関するトラブルを**未然に防ぐ**ためにも、自治会における**対応策**や**ルール**を設けるべきであると考えた。
- ▶R4年に岐阜市が実施したごみ処理に関する自治会への意見聴取では、**40代以下の参加者が6%**となっており、若い世代の割合が低くなっていた。**若い世代**との対話を通じて**参画**を促し、長期的な視点で**時代に合わせた運営**に変化させていくことが必要であると考えた。
- ▶Instagramを通じて、子育て中の母親で自治会に加入していない人に対し、その理由を調査したところ、「加入の案内がなかったから」、「自治会の役員に当たりたくないから」、「自治会費が高いと感じたから」などの回答があった。**自治会加入の意義**や**役割**を**若い世代**にしっかりと**伝えていく**ということが大事であると考えた。

- ▶地域で**顔見知り**になるということが**助け合い**につながるという**メリット**を分かっ
てもらえれば、自治会に加入する若い世代が増えるのではないかと考える。
- ▶自治会の活動は、ごみステーションの管理にとどまらず、**災害時の助け合い**につな
がるなど**共助の意識**を高めるためにも重要な取り組みである。**自治会加入率が低下**
しているが、人口減少や共働き世帯の増加など時代が変化する中、対応していくことは
難しい課題であると改めて認識した。自治会に入ること、**地域とのつながり**が生ま
れるという**メリット**を伝えられると良いと感じた。
- ▶ごみステーションに出されたごみがカラスに荒らされて散乱し、近隣住民が片付け
などの**管理**をする姿を見てきた。こういった**負担**も、自治会への**加入**を躊躇する一因
になっていることが課題だと考える。
- ▶自治会加入率を高めるためには、自治会の**魅力**をどう**高めていく**かということが課
題であると感じた。
- ▶**地域コミュニティ**は、地域の人と何か困ったときに**助け合う**という**きっかけ**になり
得ることが、**一番のメリット**だと考える。助けてもらうだけでなく、自分も**助けやす**
くなる。自分が支援する立場に立つことは、何かしら**社会の役に立ちたい**と思う多く
の人が**共感**する部分である。
- ▶有識者講演においての、**ごみの収集・ステーション管理**は、地域コミュニティを**維持**
していくための**最後の機会・きっかけ**になるという話が心に刺さった。今回のテーマ
であった**ごみ処理**における地域課題は、非常に**重要**な問題であることを確認できた。

【若い世代】

- ▶説明会や学習会などの開催においては、**若い世代の声**を吸い上げるため、若い世代の
参加を**促進**するような工夫が必要である。
- ▶説明会の参加者は高齢者ばかりで、若い世代の参加者は少ない。市が新しく機能を追
加した**公式LINE**は、周りでも非常に**好評**で、知りたい情報が**ピンポイント**で届くな
ど、**市の動き**が分かりやすく**便利**である。**ネット世代**である若い世代への**アプロ
ーチ**手段として**活用**すると良いのではないかと考える。

【ごみの減量／有料化】

- ▶前回の第2回懇談会においても話が出ていた有料化については、ごみ処理**経費の増
加**、ごみ処理**施設の改修**といった課題があることを**市民や事業者**に知ってもらった
上で、検討を進めていくべきと考える。
- ▶ごみを少なくしていくことが地域の課題。**段ボールコンポスト**など、地域で**ごみ減量**
に向けた対策に取り組むべきである。
- ▶**こんなに**ごみについて**考えた機会**はなかった。
ごみ処理の問題に関して、市民や自治会、事業者に対して、**アンケート調査**するこ
とが必要だと考える。結果をもとに現状の**課題**を**洗い出し**、**市民の声**を聞きながら、ご
み処理の有料化を検討していくことが自然の流れではないか。
- ▶ごみを有料化する**メリット**は、ごみの**量が減らせる**ということ。一時的にリバウンド
するという調査結果もあるが、市民が**コスト意識**を持って**ごみ袋**を大事に使用する

という点では、**長期的**に見ればごみの量は**減っていく**と考える。

- ▶ごみ処理を有料化して**何をしたいか**ということを市民としっかり**話し合い**、有料化による**メリット**と**デメリット**を市民と**一緒**に考えていく**プロセス**が非常に大事だと考える。
- ▶ごみを有料化した後、その**財源**を何にどう使うのか、**使途**をしっかりと検討するべきと考える。例えば、非課税世帯や子育て世帯などに、ごみ袋を何枚か**無料配布**するなど、有料化にあたっては、その後の**活用**を含めてしっかりと考えながら進めてほしい。
- ▶全国的には、ごみの有料化に向かって進んでいると理解したが、岐阜市ではごみの**減量化**が進められていること、ごみ処理の**設備**（処理能力）にも少し**余力**があることを踏まえると、**急いで**ごみを有料化する**必要はない**と考える。有料化する前に、まず他のやるべきことに取り組んでもらいたい。
- ▶ごみの有料化には色々な立場から**様々な意見**がある。検討していくにしても、**広く意見を**聞くとともに、しっかりとした**説明**をしていくという**プロセス**は**欠かせない**。